

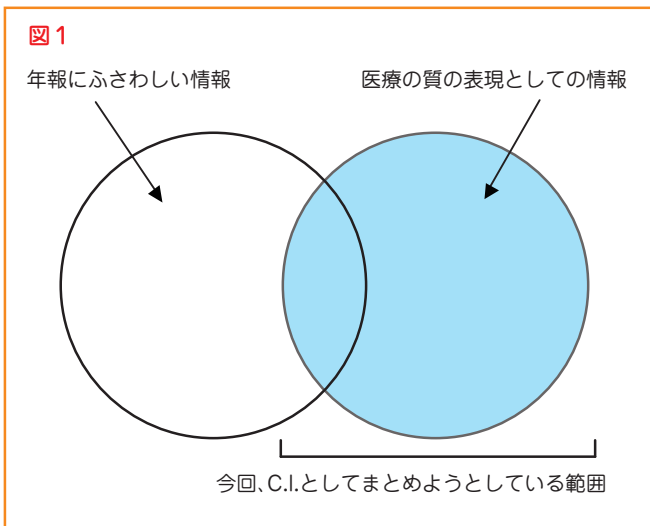
先月号の本誌紙上で述べました、当院の医療の質に関する指標一覧を今回まとめましたのでご覧ください。

今回は、ここに至る経緯などを述べましたが、今回も2点だけ追加があります。

1点目ですが、今回の一覧には個別診療機能指標に加え、その周辺、あるいは背景にあるものを総論的診療機能指標、基盤的指標として一緒に提示してあります。これは前者の理解・評価に当たっては後者の情報を是非、念頭においていただきたい、という気持ちを込めたものです。今回のC.I.に当院が「高知医療センター年報」として公表している情報を一部含んでいるのはこのためです(図1)。

2点目ですが、ご覧のように個別診療機能指標は1月から12月までの年単位で集計しているのに対し、総論的診療機能指標、基盤的指標は4月から3月までの年度単位の集計としています。これは前者が学術的な指標であり、年単位で表現することが適当と判断されるのに対し、後者ではそれが年度単位で集計されることが多く、今回はそれをそのまま使用したという事情によります。

次回以降、個々の指標の一層の改善に努めることに加え、より多角的な評価になるよう、指標の選択・追加を考えていきたいと思っています。



高知医療センター臨床評価指標(クリニカルインディケーター) 第一回集計(全69項目)

1 個別診療機能指標 (37項目)

| 指標番号 | 指標名称 | H18年高知医療センターデータ(分子・分母) | H19年高知医療センターデータ(分子・分母) | 算出単位(年、あるいは年度) | 分子 | 分母 | 備考 |
|------|---|------------------------|------------------------|----------------|---|----------------------------|---|
| 1 | 脳神経外科退院患者の深部静脈血栓発生率(%) | 0.16 | 0.00 | 年 | 退院時サマリの病名に深部静脈血栓が登録されている患者数 | 脳神経外科年間退院患者総数 | 入院時、すでに血栓があったと科長が判断できた症例は除いた。H18の分母は644例、H19の分母は775例。 |
| 2 | 脳神経外科における術後48時間以内の再手術(%) | 1.75 | 1.90 | 年 | 科内の術後48時間以内の再手術(再手術は脳外→脳外と定義する)(付随する手術を含む)例数 | 脳神経外科における手術実施患者数 | 指標の趣旨から、ここでは緊急再手術をカウントすることとした。H18の分母は171例、H19の分母は210例。 |
| 3 | 慢性硬膜下血腫の再手術率(%) | 5.3 | 11.1 | 年 | 該当年の再手術件数(初回手術の時期は考慮せず) | 該当年の慢性硬膜下血腫手術実施総数 | 該当年の慢性硬膜下血腫手術を受けた患者リスト(初回手術の時期は考慮せず)から医師による該当例の抽出。H18の分母は19例、H19の分母は36例。 |
| 4 | 斜視手術件数(件) | 57 | 96 | 年 | カテゴリーに当てはまる患者総数 | — | |
| 5 | 代謝内分分泌科医師の指示による外来個人栄養指導件数(件) | 63 | 85 | 年 | 年間延べ数 | — | 人数でなく、件数とした。 |
| 6 | 当院で糖尿病治療を行った患者の中期的治療効果(グリコHbA1cの低下幅)(%) | 3.23 | — | 年 | [代謝内分分泌科で治療開始時のHbA1c値-初診後半年以上(1年未満)で最も改善したHbA1c値]が集計可能であった患者データの平均値 | — | 1)治療の早期効果は例えば、退院時の血糖値があるが、これは指標としての価値は高いとは言えない。一方、長期効果は糖尿病合併症の発生率・治療率が指標となろうが、開院後間もない当院では算出が困難である。このため、今回は中期的効果判定とした。 2)H19年分は、H20年春時点では算出できない。H18年の該当例は41例。 |
| 7 | 糖尿病治療を主目的とした入院患者の冠動脈循環評価率(%) | 86.15 | 90.20 | 年 | 分母のうち、マスター心電図and/or心筋シンチand/or冠動脈カテのいずれかを実施している患者数 | 代謝科に入院し、糖尿病の治療が主目的であった患者総数 | 対象とした患者(分母)は、臨床的観点から入院中に冠動脈循環評価をすべき、と判断される患者群とした。妊娠糖尿病、他科での手術直前の患者など、当該入院中に冠動脈循環評価の適応にならない患者群は除いた。H18の分母は65例、H19の分母は51例。 |

| 指標番号 | 指標名称 | H18年高知医療センターデータ (分子・分母) | H19年高知医療センターデータ (分子・分母) | 算出単位 (年、あるいは年度) | 分子 | 分母 | 備考 |
|------|---|----------------------------|----------------------------|--------------------|---|-----------------------------------|--|
| 8 | 気管支鏡検査実施後の気胸発生率(%) | 0.3 | 0.0 | 年 | 検査後気胸発生症例数 | 気管支鏡施行症例数 | H18の分母は359例、H19の分母は362例。 |
| 9 | 造血幹細胞(同種、自家)移植実施数(件) | 0 | 6 | 年 | 造血幹細胞移植実施数(同種、自家) | — | 血液科、小児科の実績を合わせた。 |
| 10 | リツキシマブ使用数(件) | 45 | 51 | 年 | 使用患者数 | — | |
| 11 | 輸血時の不規則抗体スクリーニング検査の陽性率(%) | 2.3 | 2.4 | 年 | その陽性件数 | 輸血時の不規則抗体スクリーニング依頼件数 | 輸血時の不規則抗体スクリーニング依頼件数、H18の件数は1,653例、H19は1,713例。 |
| 12 | 腎生検実施数(腎臓科)(件) | 82 | 66 | 年 | 科での腎生検総回数 | — | |
| 13 | 腎生検(腎臓科)における合併症発生率(%) | 0.0 | 0.0 | 年 | 科での合併症発生数 | 科での腎生検総数 | 腎生検総数、H18は82例、H19は66例。 |
| 14 | 腎移植実施数(件) | 8 | 9 | 年 | 腎移植総回数 | — | |
| 15 | 大腸内視鏡治療・処置後の緊急手術率(%) | 0.0 | 0.0 | 年 | 穿孔による開腹手術症例数 | 大腸内視鏡ポリペクトミー・粘膜切除術実施総症例数 | 大腸内視鏡ポリペクトミー・粘膜切除術の総症例数、H18は208例、H19は169例。 |
| 16 | 総胆管結石処置後の緊急手術率(%) | 0.0 | 0.0 | 年 | 穿孔による手術例数 | 総胆管結石処置実施総数 | 総胆管結石処置症例の総症例数、H18は55例、H19は124例。 |
| 17 | ヘリポート利用数(件) | 221 | 183 | 年 | ヘリ搬送件数(搬入・搬出を含む) | — | 救命救急センター実績統計 来院方法別統計(徒歩・搬送)、搬送来院患者統計 |
| 18 | 同一入院中で2回目以降の手術が緊急手術(予定してなかった手術で、科を問わない)であった患者の割合(%) | 1.25 | 1.19 | 年 | 同一入院中で2回目以降の手術が緊急手術(科を問わない予定外手術)であった患者数 | 入院手術患者数 | 同一入院中に2回以上手術を受けた患者リストから、該当例を手術部責任者のリストから抜き出した。H18の分母は4,384例、H19の分母は4,558例。 |
| 19 | 輸血製剤廃棄率(%) | 1.16 | 1.62 | 年 | 廃棄赤血球製剤単位数 | 輸血室から出庫した赤血球製剤単位総数 | 薬剤局よりのデータ。H18の分母は10,610例、H19の分母は8,705例。 |
| 20 | 麻酔からの覚醒遅延率(%) | 0.02 | 0.00 | 年 | 術後2時間を越えて回復室に入室した延べ患者数 | 麻酔科医が麻酔を担当し、回復室に入室した手術・処置などの延べ患者数 | H18の分母は4,384例、H19の分母は4,558例。 |
| 21 | 顎骨骨折観血的整復手術後の予定しない再手術率(%) | 0.0 | 0.0 | 年 | 術後感染、プレート破損などによる再手術件数 | 手術実施患者数 | H18の分母は5例、H19の分母は8例。 |
| 22 | 呼吸器外科手術後在院死亡率(%) | 0.0 | 0.0 | 年 | 手術後在院死亡数 | 呼吸器外科全手術数 | H18の分母は139例、H19の分母は115例。 |
| 23 | 呼吸器外科における胸腔鏡手術率(%) | 40.3 | 45.2 | 年 | 分母のうち胸腔鏡手術数 | 呼吸器外科全手術数 | H18の分母は139例、H19の分母は115例。 |
| 24 | 整形外科手術のうち、緊急手術例の割合(%) | 28.71 | 29.42 | 年 | 緊急で行なわれた整形外科手術数 | 整形外科手術総数 | 該当患者(分子)の選別は、手術部責任者に確認。H18の分母は808例、H19の分母は843例。 |
| 25 | 総分娩数(件) | 506 | 531 | 年 | 総分娩数 | — | |
| 26 | ハイリスク妊娠症例(%) | 60.47 | 64.41 | 年 | ハイリスク妊娠症例数 | 総分娩数 | H18の分母は506例、H19の分母は531例。 |
| 27 | 出生児体重<1,000gの産児数(人) | 16 | 24 | 年 | 出生児体重<1,000gの産児数 | — | |
| 28 | 出生児体重1,000g以上、1,500g未満の産児数(人) | 27 | 21 | 年 | 出生児体重1,000g以上、1,500g未満の産児数 | — | |
| 29 | 小児科外来患者延べ数(人) | 15,135 | 15,460 | 年 | 小児科外来患者延べ数 | — | |

| 指標番号 | 指標名称 | H18年高知医療センターデータ (分子・分母) | H19年高知医療センターデータ (分子・分母) | 算出単位 (年、あるいは年度) | 分子 | 分母 | 備考 |
|------|----------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------|--------------------|------------------|----------------------------|
| 30 | 小児科時間外入院率(%) | 41.25 | 40.70 | 年 | 時間外に入院した小児患者 | 小児入院患者総数 | H18の分母は943例、H19の分母は1,081例。 |
| 31 | 小児外科手術件数(件) | 211 | 216 | 年 | 実施件数 | — | |
| 32 | 冠動脈造影総数(件) | — | 786 | 年 | 実施件数 | — | |
| 33 | 冠動脈インターベンション初期成功率(%) | — | 97.3 | 年 | 冠動脈インターベンション初期成功数 | 冠動脈インターベンション実施総数 | H19の分母は336例。 |
| 34 | カテーテル心筋焼灼術実施数(件) | 75 | 76 | 年 | 実施件数 | — | |
| 35 | 心臓大血管手術症例数(件) | 281 | 254 | 年 | 手術症例数 | — | |
| 36 | 冠動脈バイパス手術症例数(件) | 112 | 111 | 年 | 手術症例数 | — | |
| 37 | 緊急手術症例(心臓・血管外科)(件) | 129 | 91 | 年 | 救命救急センター経由の緊急手術症例数 | — | |

2 総論的診療機能指標(質的指標を中心とする) (15項目)

| 指標番号 | 指標名称 | H18年高知医療センターデータ (分子・分母) | H19年高知医療センターデータ (分子・分母) | 算出単位 (年、あるいは年度) | 分子 | 分母 | 備考 |
|------|----------------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------|-------------------------------|---|---|
| 38 | 外来予約時間遵守率(%) | — | 66.9 | 定点 | 分母のうち、30分間の予約時間枠内に診療の始まった患者数 | 当該年度内の任意の1週間における、外来診療予約患者総数(但し、予約時刻に遅れた患者と当日、複数科を予約している患者は対象から除く) | 30分毎に設定されている診療予約枠内で、予約のとおり医師の診療の始まった患者割合を算出した。 |
| 39 | 治験・製造販売後、臨床試験契約本数(数) | 8 | 15 | 年度 | 治験・製造販売後、臨床試験契約本数 | — | IROM(*1)提供資料を業務推進課で集計。 |
| 40 | 臨床治験症例数(件) | 37 | 24 | 年度 | 臨床治験症例数 | — | IROM提供資料を業務推進課で集計。 |
| 41 | ボランティア1名あたりの月平均活動回数(回) | 3.9 | 4.9 | *年度 | ボランティア活動回数 | ボランティア活動人数 | まごころ窓口にて集計。ただし、マクドナルドハウスでの活動を除く。*当院のボランティアの年度集計は3月～2月の12ヶ月。 |
| 42 | ボランティア1名あたりの月平均活動時間(時間) | 12.9 | 15.4 | *年度 | ボランティア活動総時間 | ボランティア活動人数 | まごころ窓口にて集計。ただし、マクドナルドハウスでの活動を除く。*当院のボランティアの年度集計は3月～2月の12ヶ月。 |
| 43 | 剖検率(%) | 4.66 | 4.11 | 年度 | 剖検数 | 死亡患者数(入院+外来) | 解剖数はIIMS(*2)(病理依頼件数H18は19件、H19年は17件)、死亡患者数(H18は408人、H19年は413人)HOPE(*3)にて集計。 |
| 44 | AI (autopsy imaging) 件数(件) | 51 | 66 | 年度 | 外来死亡した日にCT撮影がなされた患者数 | — | 外来で死亡した患者で、来院日にCT撮影がされた件数をIIMS・診療支援DWH(*4)にて集計。 |
| 45 | 褥瘡発生率(%) | 2.5 | 0.6 | 定点 | 調査日に褥瘡を保有する患者数-入院時に褥瘡を保有する患者数 | 調査日の入院患者数 | 日本褥瘡学会による定義に従ってスキンケア・サポート室にて集計(毎月の発生率の年間平均)。 |
| 46 | インシデントレポート報告率(%) | 2.07 | 1.88 | 年度 | インシデントレポート報告総数 | 退院患者の在院延べ日数 | インシデントレポートシステムから医療安全管理室にて集計。 |
| 47 | 医師からのインシデントレポート報告率(%) | 5.4 | 2.7 | 年度 | 医師からのインシデントレポート報告数 | 全インシデントレポート数 | インシデントレポートシステムから医療安全管理室にて集計。 |
| 48 | 退院サマリ作成率(%) | — | 79.2 | 年度 | 退院後1週間以内に科長または主治医が承認した件数 | 総退院患者数 | 中央診療情報管理室にて集計。 |

| 指標番号 | 指標名称 | H18年高知医療センターデータ (分子・分母) | H19年高知医療センターデータ (分子・分母) | 算出単位 (年、あるいは年度) | 分子 | 分母 | 備考 |
|------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------|------------------------|------------|--|
| 49 | 研修医1人当りの講習会受講済み指導医(人) | — | 0.47 | 年度 | 認定された指導医講習会を受講している指導医数 | 在院初期臨床研修医数 | 研修管理委員会研修プログラム届出事項(指導医講習はH19年度8名受講) |
| 50 | 患者意見のうち、感謝文の割合(%) | 19.6 | 17.2 | 年度 | 投書された感謝文の件数 | 投書された意見総数 | H18の分母は1,058件、H19の分母は916件。まごごろ窓口にて集計。 |
| 51 | 苦情発生率(%) | 0.5 | 0.5 | 年度 | 投書された苦情件数 | 実入院患者総数 | まごごろ窓口にて集計。 |
| 52 | 転倒転落率(%) | 0.16 | 0.16 | 年度 | 入院中の転倒・転落患者数(延べ件数) | 在院患者延べ数 | [件数/患者・日]としてインシデントレポートシステムから医療安全管理室にて集計。 |

3 基盤的指標(実績的指標を含む) (17項目)

| 指標番号 | 指標名称 | H18年高知医療センターデータ (分子・分母) | H19年高知医療センターデータ (分子・分母) | 算出単位 (年、あるいは年度) | 分子 | 分母 | 備考 |
|------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|--------------------|----------------------|----------------------------|--|
| 53 | 入院患者数(人) | 12,023 | 12,222 | 年度 | 新入院患者数 | — | 医事統計レポート(医事DWH)(*4)より算出。 |
| 54 | 退院患者数(人) | 12,029 | 12,199 | 年度 | 退院患者数 | — | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 55 | 1日平均外来患者数(人) | 685 | 680 | 年度 | 実稼働日数 | — | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 56 | 年間新規患者数(人) | 20,085 | 17,811 | 年度 | 新規外来患者数 | — | 新たにIDを取得した患者数として医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 57 | 1日平均在院患者数(人) | 466 | 447 | 年度 | 実入院患者数 | 365日 | 24時現在で在院している患者数として医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 58 | 1日平均入院患者数(人) | 499 | 480 | 年度 | 延入院患者数 | 365日 | 上記に退院患者を含むものとして医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 59 | 病床数(床) | 648 | 632 | 年度当初 | 許可病床数 | — | 医療法届出事項(結核病床を含む) |
| 60 | 稼働病床数(床) | 648 | 592 | 年度 | 稼働病床数 | — | 医療法届出事項(休床の届出した病床を除く)(H20年3月のみ562床) |
| 61 | 平均在院日数(日) | 14.2 | 13.4 | 年度 | 実入院患者数+同日入退院患者数 | (新入院患者+退院患者数)÷2 | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 62 | 一般病床の平均在院日数(日) | 13.6 | 12.5 | 年度 | 実入院患者数+同日入退院患者数 | (新入院患者+退院患者数)÷2 ※転入転出含む | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。ただし、分子は実入院患者数と同日入退院患者数で計算。 |
| 63 | 病床利用率(%) | 85.10 | 89.76 | 年 | 延入院患者数 | (月間日数×月末病床数)の1月～12月の合計 | 一般病床(特定入院対象病床および結核病床を除く)への延べ入院患者数を医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 64 | 病床回転率(%) | 24.6 | 27.5 | 年度 | 前年度繰越患者数+入院患者数+転入患者数 | 稼働病床数 | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 65 | 紹介率(%) | 53.41 | 55.18 | 年度 | 地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠 | 地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠 | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。ただし、地域医療支援病院の式で計算。 |
| 66 | 逆紹介率(%) | 72.54 | 84.95 | 年度 | 地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠 | 地域医療支援病院申請基準算定方法に準拠 | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。ただし、地域医療支援病院の式で計算。 |
| 67 | 死亡退院率(%) | 2.94 | 2.81 | 年度 | 死亡退院数(外来死亡例は含まない) | 年間退院患者数 | 医事統計レポート(医事DWH)より算出。 |
| 68 | DPC(*5)入院期間Ⅱ以内の退院率(%) | — | 77.8 | 年度 | 入院期間Ⅱ以内の退院患者数 | DPC退院患者数 | IIMS・DPCオーダより集計。 |
| 69 | DPC2SD(*6)超えの退院率(%) | — | 5.8 | 年度 | 2SD超え退院患者数 | DPC退院患者数 | IIMS・DPCオーダより集計。 |

*1: IROM(アイロム、院内治験コーディネーター) *2: IIMS(統合情報システムIntegrated Intelligent Management System)
 *3: HOPE(医事業務システムの名前) *4: DWH(医事データウェアハウス) *5: DPC(包括評価 Diagnosis Procedure Combination)
 *6: DPC2SD(各DPCにおける平均在院日数+2×標準偏差)